

さまざまな分野で“がんばる”長崎市民をご紹介!!

ながさきメーカー

長崎 maker

今月のmaker 長崎ハンドベルコミュニティ

「天使の歌声」と称されるハンドベルの演奏を通して、演奏者・観客ともに癒される時間を過ごしていただくとともに、「長崎らしい」音楽文化を広めようと活動しています。



平成2年に開催された、長崎「旅」博覧会を契機に発足した「長崎ハンドベルコミュニティ」。中学校、高校を含む13チーム約150人のメンバーが所属し、平和祈念式典(長崎ブリックホール)や福祉施設などで演奏したり、「ハンドベルフェスタin長崎」を開催したりしています。10月開催のねんりんピックでも演奏予定とのことです。

楽器・場所・演奏団体を調整して演奏依頼への対応をしたり、ハンドベル教室などで演奏者を増やしつつ、小学生から高齢のかたまで楽しめる環境をつくっています。

練習を見ていると、音の強弱やタイミングなど、奥深さが感じられます。一つのベルで一つの音を出すため、メンバーの心が一つにまとまって、はじめて楽曲を表現できます。

「曲中での出番が少なくても、決して欠かせない、大事な役割を担っているんです」と、講師の福田さんは話します。

敷居が低くて誰でも始められるというハンドベル教室、詳しくは28ページをご覧ください。特に男性が不足とのこと。興味を持たれた方はぜひご連絡を♪

※活動内容など詳しくは、ホームページ「長崎ハンドベルコミュニティ」で検索を。



働き盛りの長崎人をクローズアップ!!

はたらきびと 輝く働き人



長崎漁港水産加工団地協同組合
しらつちとみこ
白土 富子 さん

水産加工で発生する残さいの魚粉への処理、加工用水の供給、水産加工品の販売などを行う同組合で、白土さんは経理と営業の責任者を務めています。長崎の魚の国内外への販売強化に取り組んでいます。

Q1. どのような業務をされていますか?

私は、もともと経理担当として就職したのですが、販売事業の県外営業にも携わるようになりました。問屋、百貨店、外食チェーンなどと商談し、長崎の水産加工品を売り込むほか、物産展などで水産加工品を消費者の方々に販売しています。

最近では、国内だけではなく、香港、韓国、台湾、ベトナムなど海外の物産展にも出展していま



東京で開催された展示会にて

す。特に香港では日本食がブームとなっていて、イカの一夜干しやあごだしなどがよく売れていますよ。

Q2. 女性が水産関係で働くのは難しいですか?

就職した当初は、会議などに参加しても女性は私だけ、ということが多かったです。ただ、百貨店などのバイヤーや実際に魚を買うお客さんは女性の方が多いので、女性の視点が大切です。女性が不利だと思うことは特にありません。組合の営業担当者も、男女ほぼ同数です。

Q3. これから力を入れていきたいことは?

長崎は、日本一と言われるほど魚種が多いという強みがあります。バイヤーなどとの意見交換を大切に、消費者のニーズを水産加工業者の方々に伝えて商



品ぞろえが豊富な長崎の水産加工品

品作りに生かしてもらおうなどの工夫をすることで、長崎の魚を全国や海外にもっと広めていきたいと思ひます。

熱心に仕事をする一方、平日は料理や家事などもこなし、休日は家族と一緒に過ごすのが大好きという白土さん、オンとオフの切り替えができるすてきなかたでした。